

熱中症の『見える化』

近年急激な気温の上昇などにより熱中症のリスクが高くなっている。建設現場は基本的に外での作業が多く、熱中症になるリスクが高い。そのため熱中症の初期症状の発見が遅れると重大災害につながる。

そこで当現場では、NETISに登録されている熱中対策ウォッチカナリア【KT-200121-A】を職員及び作業員に配布し熱中症の早期発見・予防に努めた。



作業時に腕につけるだけで、危険な時は音が教えてくれる。



現場内に飲み物と塩飴を常備し休憩、塩分補給をできる状態を作った。

